啄木かるた二十五首

岩手県盛岡市は、石川啄木のふるさとです。幼少期を過ごした渋民の宝徳寺をはじめ、金田一京助と共に学んだ母校盛岡高等小学校(現・下橋中学校)、盛岡中学校(現・盛岡第一高等学校)や啄木新婚の家があります。

このかるたは、啄木生誕百二十年を記念し広く知られているうた二十五首を選びつくりました。家庭や学校そして地域交流などの機会に、啄木のうたを大きな声で読み、ふるさとや自然を多く詠んだ啄木の心情にふれながらかるたを楽しんでください。

1
いのちなき砂のかなしさよ
さらさらと
握れば指の　あひだより落つ

2
岩手山
秋はふもとの　三方の
野に満つる虫を　何と聴くらむ

3
学校の図書庫の裏の秋の草
黄なる花咲きし
今も名知らず

4
かにかくに渋民村は恋しかり
おもひでの山
おもひでの川

5
汽車の窓
はるかに北にふるさとの
山見え来れば　襟を正すも

6
教室の窓より遁げて
ただ一人
かの城址に寝に行きしかな

7
京橋の滝山町の
新聞社
灯ともる頃のいそがしさかな

8
霧ふかき好摩の原の
停車場の
朝の虫こそすずろなりけれ

9
こころよく
我にはたらく仕事あれ
それを仕遂げて死なむと思ふ

10
不来方のお城の草に寝ころびて
空に吸はれし
十五の心

11
さいはての駅に下り立ち
雪あかり
さびしき町に　あゆみ入りにき

12
しらしらと氷かがやき
千鳥なく
釧路の海の冬の月かな

13
砂山の砂に腹這ひ
初恋の
いたみを遠くおもひ出づる日

14
その昔
小学校の柾屋根に　**我が投げし鞠**
いかにかなりけむ

15
たはむれに母を背負ひて
そのあまり軽きに泣きて
三歩あゆまず

16
たんたらたらたんたらたらと
雨滴が
痛むあたまに　ひびくかなしさ

17
東海の小島の磯の白砂に
われ泣きぬれて
蟹とたはむる

18
友がみなわれよりえらく見ゆる日よ
花を買ひ来て
妻としたしむ

19
西風に
内丸大路の桜の葉
かさこそ散るを踏みてあそびき

20
函館の青柳町こそかなしけれ
友の恋歌
矢ぐるまの花

21
はたらけど
はたらけど猶わが生活　楽にならざり
ぢっと手を見る

22
ふるさとの訛なつかし
停車場の　人ごみの中に
そを聴きにゆく

23
ふるさとの山に向ひて
言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな

24
盛岡の中学校の
露台の
欄干に最一度我を倚らしめ

25
やはらかに柳あをめる
北上の　岸辺目に見ゆ
泣けとごとくに

※太字部分が取り札(絵札)です

かるたの遊び方・競技方法

○ 個人戦は　1グループ2～8人で多く取った人が勝ちです
○ 団体戦は、2～3人1組で対戦し　合計枚数の多い方が勝ちです

かるたの読み方

○ 最初に読む札は　練習なので取らないこと
○ 読み手は上の句をよみ　続いて下の句を読みます
○ 絵札を取るまで下の句をくりかえし読みます
○ つぎに進むときは　前の下の句を読んでから新しい札を読む方法もあります

企画・制作
もりおか文芸舎
〒020-0064　岩手県盛岡市梨木町10－22
Tel・Fax　019(624)1887